

保育ネットワーク

子どもの成長を
保護者とともに
喜び合う保育を実践

岐阜市西部の長良川の堤防沿いに広がる鏡島地区は、緑豊かな自然環境にあり、名古屋まで電車で30分弱という都心へのアクセスにも恵まれた住宅街です。この地に建つ鏡島保育園は、公立保育所民営化の移管を受けて、社会福祉法人同朋会が平成15年に開設しました。「同朋会は昭和61年の設立以来、障害者支援施設と高齢者施設を中心に運営してきました。保育園は岐阜市から経営移管を受けた2園があります。いずれの施設も『一つの命を共に生きる』を理念に掲げて事業展開しています」と川上城園長は話します。



川上城園長

【カテゴリーⅠ】「子どもの育ちを保障する」

①質の高い保育について研究をすすめ、実践につなげます。 ※

恵まれた自然環境での遊びを大切に 情緒豊かで元気な子どもを育む

鏡島保育園の保育目標は、「心豊かで、たくましい子どもを育てる」。豊かな心を育むために最も大切にしているのは、自己肯定感と自己の価値観。「人は自分が愛されていると感じると、自分には価値があるのだと実感し、他人にも思いやりをもって接することができます。私たち保育士は、子どもたちが『先生は自分のことが大好きなんだ』と感じられるよう、常に笑顔で温かく接することを心がけています」と市川紀恵副園長。



市川紀恵副園長
兼主任保育士

保育園では、春になると堤防沿いを歩いて河川敷広場へ遠足に出かけます。タンポポやオオバコなどの草花を摘んで花冠や草相撲で遊んだり、図鑑で草花や虫の名前を調べたりするもので、季節を肌で感じる「自然見つけ」です。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で秋の

遠足になり、キンモクセイの香りや秋の草花を楽しみました。夏にはダイナミックな「どろんこあそび」。園庭の砂場に水を溜めて、全身どろまみれになって遊びます。保育士がホースで撒く水を傘で受けて水の音を聞いたり、日なたで温まった水たまりを「温泉だ!」と発見して足湯をしたり。子どもたちは遊びながらどんどんイメージを膨らませます。

また園では「楽しく食べること」を大切にしており、絵本の読み聞かせのあとで絵本に登場するおやつを食べる取り組みや「味見当番」を行っています。絵本とおやつとの取り組みは、おやつがホットケーキの日には「ぐりとぐら」、ドーナツの日には「バムとケロのにちようび」というように、その日のおやつに合わせた絵本を選びます。子どもたちには絵本の世界が現実になるワクワク感を与え、保育士にとっては調理員との協力により保育準備の負担軽減につながっています。「味見当番」は週1回、年長児2〜3人が給食の前に調理室でスプーン1杯分の主食の味見をし、どのような味だったかをクラスみんなに伝えます。昨年からは始めた取り組みですが、最初は味噌と醤油の区別がつかなかった子ども、回を重ねるうちに「ニンジンと鮭が入っていた」とか、酢飯を食べて「お雛様の時の味がした」など、具材や調味料の味がだんだんわかるようになり、食べることへの関心が高まっています。

【カテゴリーⅡ】「子育てライフを支援する」

⑧家庭との密接な連携による子育て支援に努め、子育てにともに取り組みます。 ※

クラスボードを活用し 保護者に子どもの様子を伝える

園では玄関にクラスボードを貼り出して、1日の保育と子どもの様子を保護者に伝えていきます。「クラスボードは、私が他園を見学した際に感銘を受け、保育士に提案したのですが、意欲と迷いのふたつの意見に分かれました。無理な導入は見送ろうと思っていた矢先、あるクラスが写真入りのクラスボードを作ってきたのです」と市川副園長。そのクラスボードがよくできていたことからやってみようという意見が一致し、2年前の春から実施となりました。作成方法は、デジカメで

社会福祉法人同朋会
鏡島保育園
(岐阜県岐阜市)



元気に河川敷広場を駆け回る

撮影した写真をタブレットに取り込み、文書作成ソフトで写真とコメントを組み合わせ、コピー機で印刷。コメントは「子どものつぶやき」「保育のねらい」「保育者の思い」「子どもの成長の見どころ」などの観点で書かれます。

棚瀬礼菜保育士は「写真があることで内容を保護者に伝えやすく、保育士の振り返りにも役立ちます」、原由季保育士は「保護者から『写真付きで子どもの様子が見えるのは安心する』と言われてうれしかったです」、大野千里保育士は「子どもたちが保護者に話をした時に伝わるよう、子どもの視線



右：棚瀬礼菜保育士(年長リーダー)
左：原由季保育士(年少リーダー)

右：大野千里保育士(年中リーダー)
左：渡邊未有保育士(年中サブリーダー)

今回お伺いしたのは

社会福祉法人同朋会 鏡島保育園
(岐阜県岐阜市)

■施設基礎データ(令和2年11月現在)

定員：150名(現員142名)
0歳10名、1歳22名、2歳26名、3歳26名、4歳30名、5歳28名
職員：34名
園長1名、副園長兼主任保育士1名、保育士27名、看護師1名、栄養士1名、調理員2名、事務員1名
事業：長時間保育、延長保育、一時保育、障害児保育

※本文中の「カテゴリー」および丸文字は、「全保協の将来ビジョン」に基づき、関連のある項目を記載しています。「全保協の将来ビジョン」は全保協ホームページでご覧いただけます。



春の遠足でオオバコ相撲



異年齢で手をつないで秋の遠足



クラスボード
(2020年12月、4歳児の1日)

おやつ前の読み聞かせ



近くの神社へお散歩(0歳児)



の先を捉えるようにしています」、子どもが在園児でもある渡邊未有保育士は「クラスボードが子どもとの会話の材料になっています」とそれぞれの思いを、市川副園長は「保護者からも『園の楽しい様子が伝わってくる』『子どもが言いたいことがわかり、褒めやすくなった』など、うれしい反応があり、それが保育士のやる気を向上させていると感じます」と効果を述べます。

さまざまな取り組みを実践し、成果を積み上げてきた鏡島保育園。川上園長に抱負を伺うと、「今後も地域の幅広いニーズに応える園であり続けたいと思っています。令和3年度からは保護者からの要望も多い幼保連携型認定こども園への移行に向けての準備を進めてまいります」と笑顔で話されました。

